

新宿格 評論家。明治二十一年二月九日徳島縣生れ。和二十六年十一月十五日歿（六六―九五）。大正四年東京帝國大學法科大學政治學科卒。『讀書新聞』、『東京朝日新聞』等の記者を経て文筆生活に入る。十四年宮嶋蒼夫等と雑誌『文藝批評』を創刊。昭和七年『自由と我等』を創刊。戦後二十一年東京杉並區長就任の一年に辭職。

著譯書 『左傾思潮』（大正十年九月十日文泉堂書店）、『近代心の解剖』（大正十四年九月十九日至上社）、『月夜の喫煙』（大正十五年三月十五日解放社『解放群書』）、『季節の登場者』（昭和二年二月十八日人文會出版部『日本エッセイ叢書』）、『ウロボトキン全集・第九卷』（ロシア文學・その理想と現實）（譯、昭和二年十二月二十八日春陽堂）、『エレンゲルグ他作』、『新興文學集』（共譯、昭和四年四月二十日新潮社『世界文學全集』）、『近代明色』（昭和四年十一月五日中央公論社『中間物選集』）、『風は流れる』（昭和五年二月二十日新時代社）、『消費組合と無政府主義』（合著、昭和五年一月二十日共働運動研究會『共働運動叢書』）、『アナキズム藝術論』（昭和五年五月二十一日天人社『藝術論システム』）、『資本主義？社會主義？・共產主義？・セリグマン・ブロッタウヤー・ニヤリンゲの大論争』（譯、昭和五年五月二十五日天人社）、『機械藝術論』（合著、『新興藝術』編輯、昭和五年五月二十八日天人社『藝術論システム』）、『ヤンデル・タロウ作』、『民國大動亂―熱風』（譯、改訂第8版、昭和八年七月、千白生進社）、『最近の文學・文章研究と國語教育』（合著、千葉春雄編、



昭和七年十月、千白厚生圖書店）、隨筆集『生活の鏡』（昭和八年十

- 一月十日南倉書房)、『女性點描』(昭和九年十月、千一南光社)、
『月夜の喫煙』(昭和十年七月、千白不_レ屋書房)、パヤル・バツク
作『大地』(譯、昭和十年九月十日第一書房)、コクレオパトラ情
熱の妖花』(昭和十一年六月、千一南光社『新潮社』新傳記叢書)、
ル・バツク作『分裂せる家』(譯、昭和十一年十一月、千白第一書
房)、『戀愛の手紙』(編、昭和十一年五月、千白京書院)、オルガ
・デイミトリエフ著『眞相の聯』(譯、昭和十一年十一月、千二白
豐文書院)、林語堂著『我國土・我國民』(譯、昭和十二年七月、千
豐文書院)、ジヨザマン・ニ・パピーニ著『パピーニ叙傳』(終りし
人)、『(譯、昭和十二年九月十八日ヤテネ書院)、支那在留級
日本人小學生『方現地報告』(編、昭和十四年十月十日第一書房『戰時體制版』)、
ジヨン、スタインバツク作『怒りの葡萄』(上卷)、『(譯、昭和十四年
十一月七日四元社)、タリストフワー・モーリ作『青春の記録』(譯、
六版、昭和十五年七月八日洛陽書院)、パヤル・バツク作『ありの
まゝの貴女』(譯、昭和十五年十一月五日今日の問題社『ノーベル賞
文學叢書』)、『野雀は語る』(昭和十六年七月、千白青年書房)、
『國語文化講座・第四卷―國語藝術篇』(合著、昭和十六年八月、千
五白朝日新聞社)、『戰争と文化』(昭和十六年九月五日青生社弘道
閣『新世代叢書』)、E・P・プレンティス著『人類生活史』(山内
房吉共譯、昭和十七年九月十五日京洋經濟新報社)、『新しき倫理』
(昭和十七年十一月五日金鈴社)、『心のひびき』(昭和十七年十一
月十五日清統社)、『男性論』(編、昭和十七年十一月十八日昭和書
房)、『新女人學』(昭和十八年一月十日大阪・全國書房)、『趣味

